

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年5月29日】第166号



毎日の授業を大切に

1学期が始まってから、もう間もなくで2か月がたちます。

農大稲花小では、様々な体験的な学習や英語の学習など、特色のある学びを展開しています。しかし、何より大切にしているのは毎日の授業です。国語、算数をはじめとする各教科では、教科書を利用し学習指導要領に沿った授業を行っています。また、1組と2組で同じような進度や内容そして理解となるように、学年団の教員や専科の教員が相談しながら、授業を適切に進めています。さらに本校では、子どもたちが家庭でも復習を行い、既習事項を定着させることは大切だと考えています。自分で毎日、家庭学習に取り組む習慣が身につくまでは、保護者の方のご指導や見守りもお願いしなくてはなりません。成長にしがたって子どもたち自らが家庭学習に取り組んだり、自らの興味・関心に合わせて発展的な学習に取り組めるようになっていたりすることを願っています。一方、先取り学習に走ると、授業に対する興味や集中力が失われたり、深い理解力が欠落したままになっていたりする例が多く見られます。毎日の授業で学級の友だちとともに学び、よく考えることで力をつけることができます。

また、本校では、テストの点数で測定できる学力だけではなく、学びに向かう姿勢を含めた真の学力を養うことを大切にしています。これからも、それぞれの学年、学期、科目に応じた10の能力が育つような授業を行ってまいります。

小菅村イントロダクション

農大稲花小の4年生は、今年も山梨県小菅村での宿泊学習を行う予定です。そこで、5月22日(月)に東京農業大学大学地域創生科学科入江彰昭教授と東京農業大学非常勤講師矢野加奈子先生を稲花タイムにお招きし、小菅村の紹介をお願いしました。まず、東京農業大学初代学長横敬博士の言葉「農業のことは農民に聞け」から、小菅村に行くのは農業の学び方を学ぶことであり、農業を知るには、農山村の人々の暮らし(生活)を見て聞いて学ぶことが大切であることを学びました。人は何故、旅をするのか、という根源的な問いも、子どもたちに向かって発せられました。続いて、地域とは何かについても学びました。子どもたち一人一人に「地域の研究者になってください」という言葉は、子どもたちの心に残ったことでしょう。これから6月下旬に小菅村に行くまで、子どもたちの調べ学習もすすめていきます。

5月26日(金)夕方には4年生の保護者向けに「小菅村宿泊学習説明会」をオンラインで行いました。小菅村と東京農業大学のご縁をご紹介し、続けて日程や持ち物、そのほかの注意事項について説明をいたしました。詳しい日程や持ち物は、後日配布・配信される「しおり」をご覧ください。ことになりませんが、宿泊学習はただ楽しく過ごすだけではなく、本校の「10の能力」にも掲げられている様々な力が身に付いているか、問われる場もあります。事前学習を積み重ね、宿泊学習の目的を理解して子どもたちが参加することを願っています。お世話になる「NPO 法人多摩源流こすげ」について

も下記をご覧ください。

NPO 法人多摩源流こすげ : <http://npokosuge.jp/aboutus/kosugemura>

マメのちから

5月23日(火)、3年生の稲花タイムでは校長が「マメの力」と題して授業を行いました。3年生はエダマメを栽培し、国語の説明文の単元でもダイズをトピックスとします。2学期以降にはしょうゆ塾や豆腐作り体験も予定されているのです。マメ科植物は、観賞用、飼料用、食用と幅広く利用されており、また、空中窒素を固定する根粒菌との共生によって土壌を豊かにすることもできます。食用としてはたんぱく質が豊富で、利用法も多岐にわたっています。マメについて様々な視点から説明しながら、ダイズ、インゲンマメ2種、リョクトウ、ヒヨコマメ、レンズマメ、アズキ、白花豆を使ってマメの標本も作りました。子どもたちには、ダイズ油で作るインク、ソラマメから作る醬(ジャン)、ダイヤモンド重さの単位カラットと関係があるイナゴマメ、色が変わるバタフライピーなどについても話をしましたので、ご家庭でもマメについて話題にしてみてもはいかがでしょうか。

公益財団法人日本豆類協会のホームページもご参考まで、ご覧ください。

公益財団法人日本豆類協会 : <https://www.mame.or.jp/>

お手伝い大好き

5月24日(水)の1時間目には1年生が、26日(金)の1時間目には3年生が、給食の準備をお手伝いしました。1年生はエンドウマメから筋をとって、丸々としたグリーンピースを集める作業です。エプロンと三角巾姿もかわいらしい1年生が、楽しそうにグリーンピースを集め、その日のグリーンピースご飯になりました。3年生はソラマメのさやむきです。こちらは少し力がいりますが、3年生は楽々とさやからソラマメを取り出し、きれいに集めました。調理員さんにお渡しして、お手伝いは無事終了。こちらは、茹でソラマメとなって、その日の給食に供されました。

自分たちで全校の給食の下ごしらえする楽しさ、みんなで作業する楽しさをも、味わうことができたでしょう。子どもたちは誰かの役に立ちたいという強い気持ちを持っています。ご家庭でもお手伝いの機会を作っていただくことはいかがでしょうか。よい体験になることでしょう。

イネの種まき

5月26日(金)、1年1組に続き、1年2組の稲花タイム「イネの種まき」が行われました。東京農業大学入江憲治教授のご指導によるものです。入江教授は世界で多様なイネの収集や研究をされていますので、この日も様々なイネの標本をお持ちくださいました。世界中には2万種近い稲の品種があることなど、子どもたちがびっくりするお話も多くありました。また、陸稲、深水で育つイネ、田んぼにいるアフリカの子どもたちなどの画像も見せていただき、1年生は興味津々。また、ペルーからはクローディアさん、ザンビアからはキシャさん、ベトナムからはチャウさん、と3人

の留学生が、それぞれのお国の稲作やお米の利用について英語で話をしてくれました。質疑応答(ここは通訳つき)では、どのお米料理が好きですかなど、子どもたちから質問が次々に飛び出しました。

その後、テラスでペットボトルにイネの種まきをしました。どろどろのミニミニ田んぼに、催芽した種もみを播種するのです。発芽が楽しみな子どもたち、ある程度大きくなったらご家庭に持ち帰って育てていただくことを予定しています。

校舎や校庭はみんなのもの

5年前の2018年5月28日は、東京農業大学稲花小学校の校舎が完成し、引き渡しとなった日です。設計は株式会社日建設計様、施工は北野建設株式会社様のご尽力によって校舎が完成し、厳しい公的な検査を経て、農大稲花小の校舎となったのです。注意深く見るとあちらこちらに本校らしさを出し、また子どもたちへの思いやりも見られる校舎です。美しい人工芝のグラウンドなどと合わせて、子どもたちも教職員も、自分たちの校舎や校庭を大切に作る気持ちを忘れないようにしていきましょう。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子